

情報—地域を知ることは、自分たちの未来をつくること



編集局から、読者のみなさんへ

こんにちは。みえ市民活動・ボランティアニュースの担当理事をしています、特定非営利活動法人 みえNPOネットワークセンターの服部です。三重県が設置している県民交流センターの指定管理者として、これまで重ねてきた議論をふまえて、昨年度からみえ市民活動・ボランティアニュースのリニューアルをしました。

地域の課題？

どのようにしたかという、まず、『「地域の課題」を知ろう。そして、その解決をめざす団体を紹介しよう。』という方針を立てました。「ボランティアをはじめとする、市民の自由な社会貢献活動」が、実際にどのように「地域の課題」を解決していこうとしているか。それをテーマにそって並べることで、多くの人たちに知ってもらい、自分たちのまちの課題解決に役立ててもらえればという気持ちでした。

そこで、地域の課題について担当者がトップ記事を書き、今の状態を伝える。次のパートで、みえNPOネットワークセンターのメンバーである県内各地の中間支援NPOが、それぞれの地域でテーマの課題解決に取り組む市民の活動を紹介するスタイルになりました。

去年の8月からこれまでに、『在住外国人の受け入れ』『障がい者の雇用』『ごみを生む生活』『働き方—過労死』『地方の豊かさ』『子どもの貧困』『食のスタイル』『ひとり親世帯』『認知症』といった課題をとりあげてきました。

記事を書くのは、若いセンターのスタッフたち。直感的な課題出しはできても、では実際にどうなっているかという、実はあまりよく知らないこともありました。そこで、多くの場合、県庁の担当課を訪問して取材し、公的なデータや行政施策の内容、スタンスを聴かせてもらいます。そして、実際にその課題に取り組むNPOの人たちのお話を聴き、場合によってはそのことをよく知る大学の先生など

「識者」といわれる人たちにも取材しました。そのような取材の中から記者自身が感じたことを文字にしたのが、一連の記事です。決して十分な考察ができていたとは言いきれませんが、それなりの課題紹介はできてきたと思っています。

その取材の中で、ほんとうにたくさんのさまざまな立場の人たちが、「地域の課題」を解決しようと、いろいろな取り組みをしておられることを発見できました。「地域は、まちは、これらの人たちのがんばりによっても支えられている」、こう感じた瞬間でした。



とんでもないことになりそう

いろいろな「地域の課題」を取材していくことで、自分たちのくらしを取り巻く状況や環境も見えてき

ました。自分が暮らしているまち、地域でも、テーマで取り上げた課題がある。これをあらためて実感もしました。これは、知らないでいるととんでもないことになりそうだ。だから、「地域を知る」ということは、自分たちの未来をつくることでもあるんだとも。

実は、「知る」という作業は、時間と気持ちとお財布に余裕がないと、なかなか積極的にはできません。忙しく目の前のことに対応することでめいっぱい。あるいは、面倒だし、もういいやあ、ともなりかねません。

その課題に自分が直面したとき、行政や企業、非営利団体のサービス情報などは、集中して探すとなんとか行きあたることもあります。けれどもそれらは、追い詰められて余裕のない中で、とりあえずの目の前の対応になりがちです。社会の中の大きなうごきはどうなっているか、そして、自分のまちではそのうごきにどこまで、どう対処できているか。そういう目で見ないと、場合によっては、世の中の都合にただながされてしまうこともあるかもしれません。

一方で、世の中の大きな動きや、それに対応する地域の動きを知り、「それらに自分ならどう関わるかを想像する」と、まったく違う世界が見えてきます。自分から積極的に関わる姿を想像するのは、なかなか面白いことでもあります。たぶん、「関心がある・興味がある」というのは、こういう感じで見ているのかもしれない。

自分スタイル

さて、ではどうやって、世の中の大きな流れや、さまざまな地域の課題を知り、地域を知ることができるかという、なかなか「これ」という方法はありません。それぞれにその人なりのスタイルがあるのだと思います。

たとえば、地域の情報誌などのフリーペーパーは、印刷や配布の費用がかかるため、いきおいビジネス的な商業情報が多くなります。コミュニティFMなどは多くが行政財源に頼っているため、どこまで突っ込んで語られているかわかりません。コストのあまりかからないインターネットの情報は、情報の精度や視点もさまざまです。ブログやツイッター、フェイスブックなどを使って、自分で発信してみると、情報を選択し、判断



県内の市民活動センターが出している情報誌

する「自分の眼」ができ、自分の生活が世の中とどう関わっているかが見えてくるかもしれません。自分の暮らしに引き寄せて、ものごとを判断し、実際に起きている変化を考えることも、「知る」ことの面白さのひとつです。

地域の人たちのすごさ

みえ市民活動ボランティアニュースでは、「地域の課題」の記事の他に、『三重でのフューチャーセンターの試み』の特集や、『県内各地の市民活動支援センターの紹介』の特集も組んできました。そして、今回の『地域の情報』の特集も同じで、これらを通じて、さまざまな動きを知る方法のひとつとしていただければという想いでいます。

本年度に、これからみえ市民活動ボランティアニュースでとりあげるテーマは、大枠でこんな感じです。『地域安全』『災害救助』『NPO活動の啓発』『環境保全』『子どもの健全育成』『男女共同参画』『多文化共生』『観光の振興』『雇用能力』『雇用機会』『農村漁村中山間地域』『保健医療福祉』。

私どもは、これからも身近な地域の課題をとりあげていく予定です。その中から、これらの課題の解決に関わる地域の人たちのすごさを感じ、地域の未来も見えてくるといいと思っています。そして「自分たちの未来をどうつくっていくか」について、多くの皆さんが考え、関わっていく材料を提供していこうと思っています。

(服部)